

## 駅から広がるまちづくり － 公共空間整備と市民参画 －

日大生産工 ○永村 景子

## 1. はじめに

かつて鉄道が多く多くの市民の生活の足であった時分、鉄道駅はまちの中心であり、地域経済の要衝であり都市機能が集中し、交流の場所であった。地方都市において駅はまちの顔となり、人々の滞留が賑わいを生み出した。しかし現在、多くの地方都市において、自動車中心の生活を送る市民が鉄道駅利用する機会は少なく、駅に留まる人はほとんどいない。賑わいの消えた駅では、鉄道サービスの質の低下につながり、利用者の少ない公共空間は、その環境の維持さえままならない。

スプロール化が進み、自動車交通が主流となった地方都市において、鉄道利用者は減少の一途をたどる。利用者の減少は、鉄道を含む公共交通路線の存続維持を脅かし、鉄道利便性の低下を招き、さらに鉄道利用者が減少する、という負の連鎖をもたらす。超高齢化社会を目前に控えた我が国において、誰もが安全・安心に暮らせるまちづくりの基盤として、公共交通は欠かせない存在である。

近年、鉄道駅および周辺を整備することで、賑わいを取り戻し、再びまちの顔としようとする地方都市も少なくない。一方で、ひとたび鉄道に背を向けた市民を再び鉄道駅へと足を運ばせ、賑わいを生み出すには、鉄道駅は鉄道利用者のみならず、多くの市民が集い滞留する場所である必要がある。当該空間における人々の過ごし方は、空間の設え(ハード)が変われば必然的に変わるとはいいい難く、人々の過ごし方や駅に対する意識を変える仕掛け(ソフト)が重要である。本稿では、こうした鉄道駅およびその周辺整備事例として、筆者が関与している「西鉄柳川駅(福岡県柳川市)」と「JR柳ヶ浦駅(大分県宇佐市)」を紹介する。

## 2. 西鉄柳川駅周辺整備と市民まちづくり展開

西鉄柳川駅は福岡県柳川市(人口66,561人)にある鉄道駅である。1日の平均乗降客数は11,274(平成29年度1日平均、単位:人)である。整備前は西側1ヶ所に改札・出入口があり、駅前にはタクシー・バス・自家用車の乗降用ロータリーがあった。「水郷の郷」として福岡市からの日

帰り観光圏であることから観光客の利用や、福岡市・久留米市方面への通勤・通学利用者が利用する駅である。1時間に2本停車する特急電車に合わせ、駅周辺が重体するのみでなく、駅前ロータリ

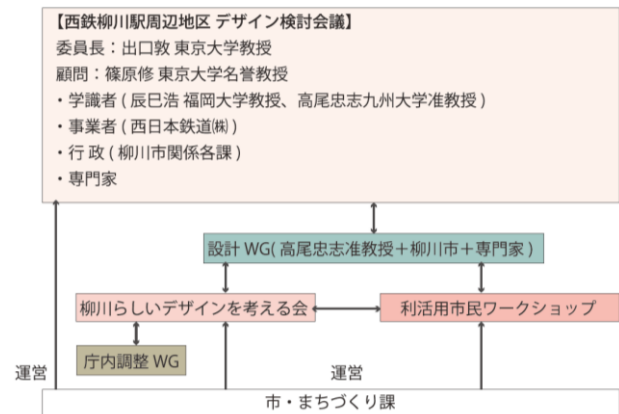


図-2 西鉄柳川駅周辺整備の設計デザイン検討体制



写真-1 整備後の西鉄柳川駅前



写真-2 専門家と市民による検討ワークショップ

Community Design for Local Development Around the Station

Keiko NAGAMURA

一は交通動線が整備されておらず、送迎用の家用車が錯綜し、危険な状況が続いていた。駅前には広場や観光案内板も設置され、周辺には飲食店も並んでいたものの、市の玄関口としての設えや賑わいは失われていた。

柳川市は駅東側の土地区画整理事業に合わせ、駅の東西をつなぐ自由通路を整備、自由通路整備に合わせて、東西に駅前広場を設ける駅周辺整備を行った。自由通路整備に合わせ、西日本鉄道株式会社は、改札を2階に移設する駅の橋上化整備を行った。市は整備にあたってデザイン検討会議、設計ワーキング(専門家による設計チーム)、利活用市民ワークショップ、柳川らしいデザインを考える会、庁内調整ワーキングを設置し、事業を進めた。短い事業期間において、専門家と市民が対話を重ね、柳川市に相応しい公共空間を具現化したことで、西鉄柳川駅は市民が思い思いに過ごし、仲間と共に主体的に利活用する空間へと成長した。こうした検討体制・事業プロセスも評価され、当該整備は2015年度グッドデザイン賞を受賞している。

### 3. JR柳ヶ浦駅周辺整備事業の始動

JR柳ヶ浦駅は、大分県宇佐市(人口56,509人)の北部に位置している。市内の駅の中では、中心市街地に近く、特急停車駅であり、利用者(約1,300人/日)が最も多い駅である。宇佐市総合計画「基本構想」では、市の玄関口と位置付けられ、中心的な役割を担う公共交通機関であることから、それらの特性を活かした拠点づくりが求められている。一方、駅前周辺の現状は、駅前が狭隘であり、朝夕の時間帯は通行に支障を来している。また歩行者と自動車、通過交通と駅利用交通との動線が錯綜していることから、安全性等に対する課題があるため、駐輪場や駐車場等を含め、誰もが安全に集える駅前広場の整備が求められている。さらに駅舎については、建築後50年以上が経過し、市民等から老朽化が指摘されている上、運営形態の変化等により未利用スペースが生じている。未利用スペースを活用した機能の充実等を図り、誰もが快適に利用できる駅舎への改修が必要となっている。

柳ヶ浦駅はかつて、機関庫が存在していた。最近のダイヤ改正までは、特急始発列車が全国で最も早い時間帯に発車する駅であった。高齢の市民にとって、柳ヶ浦駅は鉄道の要衝として誇りある場所であった。柳ヶ浦駅周辺整備の計画は昭和の終盤頃から市民の悲願であったにもかかわらず、長年着手されず、さらに近年は委託駅となり市民と駅との関係は薄れている。市は平成26年度に



図-1 西鉄柳川駅周辺整備のプロセス

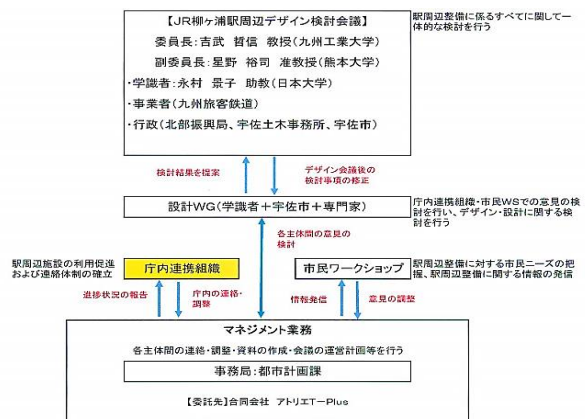


図-3 JR 柳ヶ浦駅周辺整備の設計デザイン検討体制

JR柳ヶ浦駅周辺整備基本構想、平成28年度に同基本計画書を取りまとめるなど、事業を本格化している。当該事業は平成29年12月、都市再生整備計画を国に提出し、平成30～34年度の社会資本整備総合交付金交付を受けることとなった。

### 4. おわりに

本稿では駅周辺整備に伴う市民参画の取組みについて、2つ事例の概略を紹介した。発表時には、西鉄柳川駅の専門家・市民の対話と市民活動の展開、JR柳ヶ浦駅で現在取り組んでいる市民ワークショップなどについて、詳しく述べる。